

山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

令和7年度 展示テーマ

『つたえる / つたわる』



山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告 令和7年度 展示テーマ『つたえる / つたわる』

事業の目的

本事業は、山口県内の大学が保有する学術資産および研究成果を、学内のみならず地域社会へ広く公開・還元することを目的としています。共通テーマに基づいた同時期開催の展示を通じ、大学間の相互連携を強化するとともに、「知の集積場」として教育研究を支える図書館・博物館の存在意義を広く発信し、その社会的価値の向上を図っています。

事業の経緯と経過

令和7年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制により、引き続き特別展を開催しました。今年度は、12大学15館（下記「事業の実施体制」参照）での開催となりました。

今年度の事業説明会はオンライン会議として開催し、事業内容については、

◎展示の共通テーマを『つたえる / つたわる』とする

◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館2ヶ月以上展示を開催するなどが決定されました。

以降、各館の展示準備とともにポスター、チラシなどを作成し、広報物の配付による事業の周知などを行いました。

令和7年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕しました。

会期中に計数された見学者数は約1,033名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）でした。昨年度計数值1,016名よりも増加しており、全体として盛り上がりを感じられました。

次頁より、参加各館の展示内容の紹介と実施成果の報告を行っております。

事業の実施体制

・主催

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局

- 事務代表 水津峰夫（山口大学学術基盤部学術基盤推進課副課長）
- 事務担当 深川昌彦（山口大学学術基盤部学術基盤推進課副課長・企画連携係）
- 的場百花（山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係）

・参加館

- 岩国短期大学附属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館
- 至誠館大学附属図書館 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
- 下関市立大学附属図書館 下関短期大学図書館
- 周南公立大学図書館 東亜大学附属図書館 水産大学校図書館
- 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館
- 山口県立大学図書館 山口大学総合図書館
- 山口大学医学部図書館 山口大学工学部図書館
- 山口大学埋蔵文化財資料館

・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



山口県大学ML連携事業Web



岩国短期大学 附属図書館 『伝えるって、心がふれる瞬間』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18

電 話：0827-31-8141 (代)

e-mail：library@iwakuni.ac.jp

https://www.iwakuni.ac.jp/

●開催期間：10月20日(月)～12月19日(金)

【展示内容】

昔話を語る声、見つめる子どもたちのまなざし。言葉のひとつひとつを通して、世代も文化も越えて心がふれ合う。岩国短期大学の学生たちは、保育を通じて地域と子どもをつなぎ、いま、この地に息づく“物語”を未来へ伝えていきます。子どもたちのまなざしに向けて、ことばや文化を越えて思いを伝える—それは、保育者に求められる大切な力のひとつです。岩国短期大学では、多文化共生保育の学びの中で、英語など多言語の絵本を通じて、ことばだけに頼らない“伝える・伝わる”コミュニケーションを実践しています。

この展示では、学生が創意工夫をこらし、子どもたちと心を通わせた取り組みの数々を紹介しました。

【成果】

今回の本学の展示内容は、多文化共生保育に関連したものでした。具体的には、英語翻訳絵本、多文化共生に関する図書、多文化共生保育教育活動紹介のパネル等です。多文化共生保育については、本学幼児教育科が、数年前から取り組んでいる研究テーマです。図書館来館の学生は興味をもって足を止めて見入っていました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

毎年のことながら、せつかくのML連携特別展なので、学外一般観覧者が増えたらよいと思っています。展示開催のPRについては早めから考えていきたいと思っています。



展示の様様



展示の様様



宇部フロンティア大学 附属図書館 『私たちは未来に何を伝えるか？』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1

電 話：0836-38-0524

e-mail：tosho@frontier-u.jp

https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/

●開催期間：10月1日(水)～12月24日(水)

【展示内容】

友人、親子、夫婦のコミュニケーションでは、伝えにくいことがあったり、伝えたい内容が誤解されたりすることがあります。その結果、人間関係に問題を抱えることも少なくありません。では、今後の円滑な人間関係を構築していくために、互いの考えや思いをどのように伝えていったらよいでしょうか。また、祭りや郷土料理など、過去から現在に伝わる文化を、私たちは未来に向けてどのように伝えていったらよいでしょうか。

本館では、この2つの問いに対し、本学の教育・研究領域から考える展示を行いました。

【関連事業】

大学祭開館 11月8日(土)・9日(日)

【成果】

伝えたい郷土料理や学習活動の様子、教員による国際学会での発表パネル等を展示して、本学の教育・研究領域を紹介することができました。

観覧者からは、高齢者疑似体験コーナーや心理学部の表情の読み取り体験を中心とした体験型展示が良かったという評価でした。図書館の所蔵資料だけでは体験型展示の作成は難しいと思われましたが、各学科の教員によって展示パネルの監修や物品を展示することができました。学内においても研究成果を地域へ発信する意義を再確認し『つたえる』機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年は、学内の観覧者が少なく感じました。学外からの観覧者のアンケートには、大学祭で来校した際に、たまたまML展示を知ったという意見もあることから、次回は広報活動に学内メールやSNSの利用も検討したいと思います。また他館との連携や協働にも挑戦したいと思います。



展示の様様



展示の様様



至誠館大学 附属図書館 『学生とともに萩の魅力を考え、 伝える』

住 所：〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000

電 話：0838-24-4081

e-mail：library@shiseikan.ac.jp

https://www.shiseikan.ac.jp/library/

●開催期間：10月31日（金）～12月25日（木）

【展示内容】

至誠館大学が位置する萩市の基幹産業は観光であり、江戸時代の城跡、町割りが残り、歴史的風致を大事にするまちとして高い評価を受けています。また、「明治維新胎動のまち」として若き志士たちの活躍の物語が伝えられているまちとしても知られています。大学教育の中でフィールドワーク等を行いながら、伝統的建造物群保存地区や大学寮が近接する越ヶ浜地域などの地域資源をどう活用することができるかという提言を萩市内外に伝えました。

【成果】

「学生とともに萩の魅力を考え、伝える」というテーマのもと、地域貢献につながるような授業や取り組みを行っていることを紹介しました。地域の方だけでなく、授業を受講していない学生や教職員にも取り組みを知っていただけました。

ML 連携特別展でのアンケート結果は、展示物の評価が「非常に良い」「良い」と回答した人がほとんどでした。また、展示物について 2021 年度から順に活動を展示しており経緯が見やすいと評価していただくことができました。

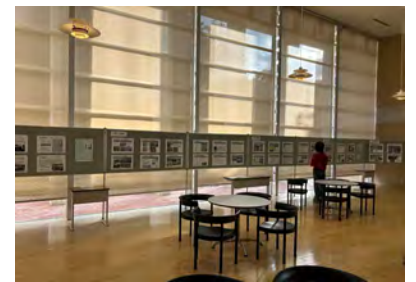
学外からの観覧者がほとんどいなかったのは残念でしたが、学内の教職員や学生に実施している活動について知ってもらえる良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度は学外からの観覧者が増えるような取り組みができればと思います。ML 連携特別展を、普段大学図書館に足を運ばない学生、教職員にも大学のことや図書館について知っていただく良い機会にしていきたいです。



展示の様様



展示の様様



山陽小野田市立 山口東京理科大学 図書館 『世界につたえる薬物問題』

住 所：〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通 1-1-1

電 話：0836-88-4512

e-mail：ylib@admin.socu.ac.jp

https://library.socu.ac.jp/drupal/

●開催期間：11月10日（月）～12月25日（木）

【展示内容】

2025 年 3 月に開催された「第 68 会期国連麻薬委員会」シンポジウムで、薬学部の学生 2 名がスピーチを行いました。薬物の危険性を伝える活動を行う立場から「薬物乱用の未然防止」の重要性を訴えました。地域社会・国際社会で活躍する学生たちが世界に向けて発信したことを、山口東京理科大学図書館で改めて紹介しました。

【成果】

本学薬学部学生の学外での活動を紹介するポスターを展示することで、学内の学生や地域の方々にご覧いただく機会を提供することができました。また、関連する資料として山口県健康福祉部薬務課に薬物乱用防止に関する展示資料を提供いただけたことで、展示内容の充実とともに今回の特別展がより多くの方にご覧いただくことができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本学図書館では、展示に適した資料の所蔵が十分ではないため、学内の動向や関連情報を踏まえながら、展示テーマに即した内容を選定し、提示しています。展示の企画・実施にあたっては、教員や学生への協力依頼を含む連携が不可欠であり、展示内容に応じた展示構成や提示方法を工夫・調整する必要があります。今後もより多くの方に関心を持っていただける展示の実施に努めてまいります。



展示の様様



展示の様様



下関市立大学 附属図書館
『応仁の乱の大内政弘と
戦国大名大内義隆』

住 所：〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号

電 話：083-252-1211

e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp

https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/

●開催期間：10月2日（木）～1月31日（土）

【展示内容】

本パネル展示は室町・戦国期の大名大内家に関する貴重な古文書や美術品などを紹介したものです。関係各所のご理解とご協力により、「絹本着色大内義隆画像」「上杉瓢箪茶入（別名、大内瓢箪茶入）」「大内義隆奉納藍革肩赤威甲冑」「須子家文書」の写真パネルを展示しました。また、藤井崇研究室で製作中の「戦国武将かるた―大内家版」の絵札3点をパネル化したものも展示しました。さらに、同研究室で発注製作した「戦国大名大内義隆花押スタンプ」を所定の紙ないし観覧者の御朱印帳やスタンプ帳に自由に捺していただけるアクティビティを用意しました。

【成果】

今回の展示は大内氏の応仁の乱に関する古文書や、学生が作成した戦国大名カルタの一部を展示しており、大学の研究活動についての広報、また学生や一般閲覧者の知的好奇心を刺激できたと思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今回は山口の戦国大名である大内氏を専門に研究している教員の協力を仰ぐことができましたが、次年度については、地域に関わる内容であり、なおかつ学生や一般閲覧者が興味を持つような研究を行っている教員を探すことや協力を仰ぐことができるかどうか不安です。



「絹本着色大内義隆画像」（龍福寺蔵。画像データは山口市教育委員会提供）



下関短期大学 図書館
『時を超えてつたえる
―タカ先生の教え』

住 所：〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1

電 話：083-223-5340

e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp

https://www.shimotan.jp/pages/51/

●開催期間：11月10日（月）～1月30日（金）

【展示内容】

2026年、河野学園は創立100周年を迎えます。本学園の礎を築いた河野タカは、「教養と生活能力とを兼備する人材」の育成を志し、社会の一員としての自立と社会参画を支える学びの場として学園を開設しました。本展示では、タカ先生が大切にされた思いや教育理念を振り返りながら、学園が歩んできた百年の歴史をたどりました。タカ先生の生涯、そして教育の現場で受け継がれてきた精神を、ゆかりの品々や貴重な資料とともにご紹介しました。

【成果】

本展示の最も大きな成果は、2026年の創立100周年を迎える前段階において、在学生のみならず、卒業生および学園内の各組織を含め、これまでの歩みに対する感謝と今後への希望を共有する機会を創出できた点です。また、創設者・河野タカ先生の教えをあらためて振り返る契機となり、学園の原点や教育理念を再認識する場としての意義もありました。展示は、教職員にとっても学園の歴史と精神に向き合い、教育機関としての姿勢を再確認する機会となりました。在学生からは、「これまで知らなかった学園の歴史を知ることができた」「タカ先生をより身近に感じる事ができた」といった意見が寄せられ、展示の教育的効果が確認できました。さらに、卒業生および外部来訪者からも、「創立100周年おめでとう」「懐かしい」といった反応がありました。これらの反応は、本展示が学園の歴史的継承および精神的共有の場として機能したことを示すものであり、企画の意義と有効性を裏付ける成果といえるでしょう。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

本館は、日頃の学習成果を披露する場としてML展を活用しており、学科の協力は必要不可欠です。しかしながら、教員の業務負担の増加や栄養学科の募集停止などにより、協力体制の維持が難しくなりつつあるのが現状です。これらの状況を踏まえると、短期的な改善を見込むことは容易ではなく、今後は、ML展示への参加の在り方そのものについて検討する必要があると考えています。



展示の様様



展示の様様



周南公立大学 図書館

『後世につたえたい、つたえる思い
～千治松コレクション4～』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台 843-4-2

電 話：0834-28-5394

e-mail：toshokan@shunan-u.ac.jp

https://www.shunan-u.ac.jp

●開催期間：10月20日（月）～12月22日（月）

【展示内容】

本学収蔵の資料に、幕末から昭和にかけての政治家、軍人などの書を中心とした千治松コレクションがあります。吉田松陰の書や 高杉晋作、木戸孝允、大久保利通、岩倉具視、三条実美の書翰などが含まれています。今回はそのコレクションから主に掛軸を公開し、歴史的資料とともに日本の一時代を切り拓いてきた人物たちの思いをつなぐ展示をいたしました。

【関連事業】

11/2（日）

大学祭

ブックリサイクル

全国高校ビブリオバトル山口県大会

【成果】

周南公立大学の財産である「千治松コレクション」における掛軸と図書館所蔵の関連資料による展示を行い、広く多くの皆さまに貴重資料の鑑賞を通して山口県にゆかりのある人物について関心を持っていただけたのではないかと感じています。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示目的の来館者数が伸び悩んだように感じました。来年度については、幅広く周知する方法を模索したいと考えております。



展示の様様



水産大学校 図書館

『水産学を伝えたい・・・』

住 所：〒759-6595 山口県下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5114

e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp

https://library.fish-u.ac.jp

●開催期間：11月4日（火）～12月24日（水）

【展示内容】

海から食卓まで水産のあらゆる分野について学ぶことができる水産大学校。水産といえば海とか魚と思いがちですが、こんなこともやっているの？という分野や研究があります。水産の様々な研究や取り組みについて、パネルなどの資料展示で皆さんにお伝えしました。

【成果】

令和7年度は海から食卓まで水産のあらゆる分野について教育・研究する水産大学校の特性を生かし、学際的な基礎研究から水産分野への応用研究まで幅広く紹介するとともに、実学教育の実施や高校生を対象にした自然科学・環境学に関する啓蒙活動をパネルなどを用いたML特別展を行いました。来場者数からは概ね好評を得ました。大学の講義や実習で触れた部分もあったことから学生達も熱心に見学し、ML特別展が教育や情報発信において重要な役割を果たしていると感じました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

図書館が行う水産大学校らしい教育・研究を紹介できるよう務めたいと考えています。



展示の様様



展示の様様



東亜大学 附属図書館

『ことばをこえて、世界と交わる』

住所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電話：083-257-5111

e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp

https://www.toua-u.ac.jp

●開催期間：10月1日（水）～1月30日（金）

【展示内容】

海外の大学との間に結ばれた協定や提携を活用しながら、地域に開かれ、地域とともに歩む大学を目指して東亜大学ではさまざまな交流事業を展開しています。大学を中心としてグローバルとローカルをつなぎあわせたグローバルネットワークを活性化するには、多彩なアイデンティティをもった人間同士が互いを「つたえる／つたわる」〈場〉を創造する取り組みが不可欠です。語学教育から国際交流スペース iko-i における普段着の国際交流まで。

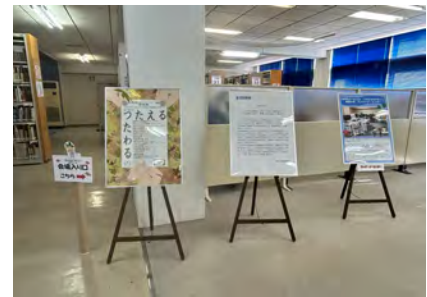
令和7年度のML連携特別展では、国際交流センターやランゲージセンターでの活動を基盤としながら、7つの学科それぞれがこれまで学内外で進めてきた交流事業とその成果を紹介しました。

【成果】

昨年度の2.5倍以上の来場者を迎えることができ、学生だけでなく学科教員、教職員のあいだで必ずしも互いに十分ではなかった学内外での交流事業やカリキュラムの成果についてひろく情報共有をすることができました。また、弊学の展示についてローカルテレビの番組でも取り上げていただけたことで、弊学の特色をひろく学外に対して発信することができました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

メッセージボードを敷設し、来場者が展示を鑑賞していただいた意見を吸い上げることを試みましたが、それらの意見を将来の交流事業やカリキュラムの改善、あるいは弊学のML連携事業に積極的に活かす仕組みを構築する課題が残されています。また、ローカルテレビで取り上げていただいたものの、必ずしもそれが学外からの来場者に結びついておらず、より効果的な学外への広報戦略について検討する必要があります。



展示の様様



展示の様様



山口県立大学 図書館

『ことばのかたち一つたえる想いー』

住所：〒753-0021 山口県山口市桜島 6-2-1

電話：083-929-6200

e-mail：lib@yp4.yamaguchi-pu.ac.jp

https://www.yamaguchi-pu.ac.jp/li/

●開催期間：11月4日（火）～1月30日（金）

【展示内容】

人の感情や思考は、「ことば」によって他者へと伝わっていきます。その「ことば」を伝えるために、手紙・日記・詩など、多くの手段が生み出されてきました。それらは時代や地域をこえて、読む者に訴えかける力をもっています。本展示では、古今東西の著名人や一般の人々による書簡や詩、手記などから、「ことば」が伝えるさまざまな想いを紹介しました。

【成果】

・本展示

本学の郷土文学資料センターが所蔵している大正期の書簡や、図書館所蔵の詩集や手記などの刊本、本展示に合わせて書かれた教職員（理事長、学長、事務局長）の手紙などが展示され、学内外の方々に関心を持ってご覧いただきました。

・来館者参加コーナー「あなたの手紙、募集します。」

教職員、学生、一般の方々など、幅広い方々からのご応募をいただきました。家族や友人、将来の自分、愛用品など、さまざまな相手への手紙が集まり、展示がより充実したものとなりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

・本展示

詩集や手記などに関して、「作者の顔写真、詩句や文章の一節などが添えられていればなおよかった」といったご意見をアンケートでいただきました。来場者の関心をより高めるためには、資料の展示方法に関してさらに検討する必要があると感じました。

・来館者参加コーナー「あなたの手紙、募集します。」

多くの方々から手紙のご応募をいただきましたが、予定していた展示スペースを埋めるには至りませんでした。関連イベントの実施にあたっては事前の周知、来館者への呼びかけなどを、より効果的に行っていかなければならないと感じました。



展示の様様



展示の様様



山口学芸大学
山口芸術短期大学 図書館
『子どもにつたわる表現媒体』

住 所：〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町1-7-1

電 話：083-972-2880

e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp

https://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library

●開催期間：10月20日（月）～12月19日（金）

【展示内容】

みなさんは子ども（乳幼児）に何かを「つたえる」ときに、言葉でつたえるのが難しいと感じたことはありませんか？子どもに何かを「つたえる」には、見たり、聴いたり、さわったり、動かしたりと、五感をとおして「つたわる」ものを活用することが効果的です。そこで今年度は、絵本、紙芝居、エプロンシアター、学生が制作したペープサートなど、子どもにつたわる表現媒体を展示しました。

【成果】

保育現場で実際に使用されているエプロンシアター等は、これから保育にかかわっていく学生だけでなく、かつて保育職に携わっていたご家族にも懐かしく、興味深く見ていただくことができました。

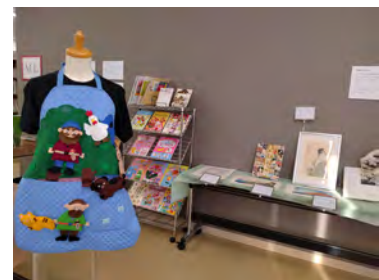
また通常は書庫に保管している浮世絵の複製版は、なかなか表に出すきっかけがありませんでしたので良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年度はアンケートの回答者がすべて学内の教職員や学生たちでした。そのわりに、閲覧のきっかけが「たまたま通りかかった」がほとんどでしたので、学内の広報について考えなければならぬと思います。



展示物



展示の様様



山口大学 総合図書館
『明倫館文庫と藩校教育』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

電 話：083-933-5182

e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp

https://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（土）～1月30日（金）

【展示内容】

文化12(1815)年、長州藩士、上田鳳陽により本学の前身である「山口講堂」が創設されました。山口講堂は規模拡大とともに「山口講習堂」に改称され、萩・毛利藩の藩校明倫館の直轄となり、文久3(1863)年、藩庁の山口移鎮に伴い「山口明倫館」として人材養成機関の中心を担ってきました。時代が変わり、山口師範学校を経て本学に継承された山口明倫館の蔵書には、所蔵の変遷からさまざまな蔵書印が押され、変革期にあった時代背景を今に伝えています。

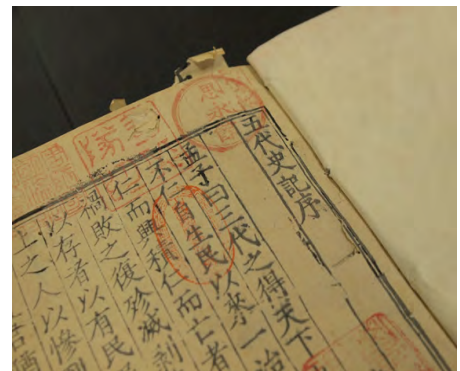
今回の展示では当館が明倫館文庫として保管している藩校明倫館、山口明倫館及び越氏塾の各校旧蔵書の中からいくつかの資料をご紹介します。

【成果】

今回はアンケートに景品を付けたことも効果があったのか、例年より多く34件の回答がありました。大半は本学の学生や教職員によるものですが、学外の方からの回答も6件あり、市外から足を運ばれた方も見受けられたため、幅広く本学が所蔵する貴重資料やその歴史に関心をもってもらえる機会となったと感じています。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

昨年のアンケート結果をふまえ、今回は当館の貴重資料を軸にしたテーマを設定したところ、「古事記伝」や「三国志」など貴重資料の現物展示への関心が高かったため、引き続き資料現物を通して歴史を感じてもらえるような展示を行いたいと考えています。



展示物



山口大学 医学部図書館 『医学部のはじまり 先人たちの思い』

住 所：〒 753-8505 山口県宇部市南小串 1 丁目 1-1

電 話：0836-22-2142

e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp

<https://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

●開催期間：11月4日（火）～1月30日（金）

【展示内容】

山口大学医学部の歴史は、昭和 19（1944）年の山口県立医学専門学校設立に遡ります。大学構内には、初代校長である富田雅次先生をはじめに、現在の医学部の発展に深く関わった 4 名の先生の胸像があります。医学教育の発展に込めた先人の思いをたどりました。

【成果】

今回の展示では医学部構内の 4 体の胸像にスポットを当てました。この 4 名の方と医学部の関係を展示することで、学生に先人の貢献を伝えることができました。また、教職員にとっても、自組織のルーツを再確認する貴重な機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示期間中に、「山口県における医学の歴史～山口大学医学部へのつながり」が知りたいという要望をいただきました。大きな潮流を解説するパネル等を並列して展示するなどして、理解をより深め、幅広い層の関心を喚起できるような構成を検討したいです。



展示の様様



山口大学 工学部図書館 『つたわるデザイン』

住 所：〒 755-8611 山口県宇部市常盤台 2 丁目 16-1

電 話：0836-85-9051

e-mail：infoserv@yamaguchi-u.ac.jp

<https://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

●開催期間：11月7日（金）～1月31日（土）

【展示内容】

図書館内に配置された「USM ハラー」「トムヴァック」「アンツチェア」「ポルダースファ」など、時代を超えて愛されるデザイン家具を自由に体験いただけます。触れて、その魅力を感じながら館内をめぐってみてください。日常の空間に息づく、『つたわるデザイン』の力をお楽しみください。

【成果】

本館に配置されているデザイン家具を学内外の方に起源を知ってもらいながらご利用いただけました。一般の方からだけではなく、普段から図書館を利用している本学学生からもこういった歴史のあるものだとは知らなかったという声も聞くことができ、「つたえる / つたわる」という今年度の展示テーマに沿った、展示ができたように思います。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示スペースを館内各所に配置したことで視聴率の高い展示と低い展示に分かれてしまったように思います。動線なども考えて今後は展示内容を検討したいと思います。



展示の様様



展示の様様



山口大学 埋蔵文化財資料館
『吉田遺跡調査団
～伝えられた成果と課題～』

住所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
電話：083-933-5035
e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp
http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryoukan.home/
●開催期間：12月8日（月）～2月6日（金）

【展示内容】

県内各所に散在していた本学の各学部が、山口市吉田の地に統合移転を開始したのは昭和41（1966）年のことでした。吉田の地に遺跡が眠っていることは、地元の歴史研究者にはすでに知られていましたが、キャンパスの造成工事や校舎の建設工事の過程で、多数の遺構や遺物が出土するに至りました。この事態に対応するため、翌昭和42（1967）年に本学は学長を団長とする「山口大学吉田遺跡調査団」が結成され、統合移転が終了を迎える昭和48（1973）年まで埋蔵文化財を保護するための発掘調査を行いました。

今回の展示では、多数の出土品を公開することで調査団の調査成果を振り返ると同時に、現在まで残される課題にも目を向けました。

【成果】

会期中、本学生だけでなく中学生をはじめ多くの地域の方々に展示を見学いただきました。地域の方々からは「遠い昔の人が作った・・・そんなものに今ふれること、見ることができ思いをはせることができました」「この地で遺跡がでたことにロマンを感じました」「ずっとこの展示をしてほしい。めっちゃ楽しい。地調査NO. ⑨（第2学生食堂新営に伴う調査）が一番好き」などの声が寄せられました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

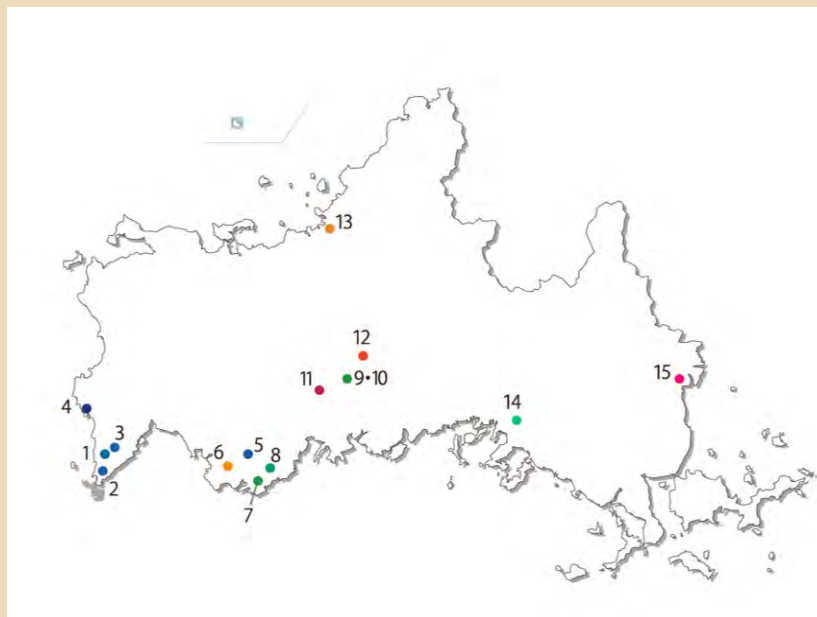
7月から地域連携展示を11月まで開催したため、山口県大学ML連携特別展の開催期間を2ヶ月しかとれませんでした（例年3ヶ月開催）。次年度は3ヶ月開催を目指します。



展示の様様



展示の様様



【下関地区】

1. 下関市立大学附属図書館 2. 下関短期大学図書館 3. 東亜大学図書館 4. 水産大学校図書館

【宇部地区】

5. 宇部フロンティア大学附属図書館 6. 山陽小野田市立山口東京理科大学図書館
7. 山口大学医学部図書館 8. 山口大学工学部図書館

【山口・萩以東地区】

9. 山口大学総合図書館 10. 山口大学埋蔵文化財資料館
11. 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館 12. 山口県立大学図書館
13. 至誠館大学附属図書館 14. 周南公立大学図書館 15. 岩国短期大学附属図書館

Musee & Kin



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展
令和7年度 共通展示テーマ『つたえる/つたわる』
山口県大学ML連携事業Web
<https://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】
山口県大学ML連携事業実行委員会
事務局
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話：083-933-5187
e-mail: ml-ymgc-uc@yamaguchi-u.ac.jp

【主催】 山口県大学ML連携事業実行委員会事務局
【共催】 大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会
【後援】 山口県博物館協会 大学博物館等協議会
山口県図書館協会